

授業科目		食事・排泄の援助技術		担当者	富吉 良子 島津めぐみ
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義 14 ・ 演習 16		1年次 前期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 食事援助技術 排泄援助技術				
授業の目標および授業計画	<p>目的 日常生活における対象のニーズに応じた援助技術を習得する。</p> <p>目標 1. 対象の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法を理解する。 2. 食事介助の具体的な方法を学ぶ。 3. 非経口的栄養摂取の援助について理解し、経鼻経管栄養法について理解する。 4. 排泄のメカニズム、排尿・排便障害とその援助方法について理解する。 4. 対象の排泄ニーズに応じた援助技術を学ぶ。</p> <p>授業計画 I. 「食事援助の技術」 第1回 食の意義 食行動のメカニズムについて 第2回 栄養状態及び摂食嚥下機能の評価について 第3回 誤嚥、病人の食事、食事援助の基本について 第4回 演習 摂食嚥下機能のアセスメントと訓練法 第5回 演習 基本的な食事介助 第6回 非経口的栄養摂取とその援助 第7回 演習 経鼻経管栄養のチューブ挿入</p> <p>II. 「排泄援助技術」 第1回 排泄の意義・メカニズム 第2回 排尿・排便障害（排泄に影響を与える因子） 第3回 排尿・排便の援助の方法 第4回 演習 排尿・排便障害の援助の方法（トイレ、ポータブルトイレ） 第5回 演習 排尿・排便障害の援助の方法（便尿器、おむつ交換） 第6回 演習 排尿・排便障害の援助の方法（便尿器、おむつ交換） 第7回 演習 排尿・排便障害の援助の方法（浣腸、摘便） 第8回 演習 排尿・排便障害の援助の方法（導尿、膀胱留置カテーテル法）</p>				
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 基礎・臨床看護技術 医学書院</p>			
評価方法	<p>演習・リフレクションシート・終講試験の成績で評価基準に到達していること。 I：50%、II：50%の評価とする。</p>				
備考					

授業科目	皮膚・粘膜保全の援助技術	担当者	島津 めぐみ 白石 睦																										
区分	単位数	時間数	授業形態																										
	1	30	講義 10 ・ 演習 20																										
	実務経験	有	看護師																										
	その実務経験を生かして行う教育内容 清潔援助技術 感染予防についての技術																												
授業の目標および授業計画	<p>I. 授業目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 日常生活における対象のニーズに応じた援助技術を習得する。 看護における基本技術を理解できる。 <p>II. 授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 日常生活における対象の清潔ニーズに応じた援助技術を学ぶ。 感染予防の意義を理解し、原理・原則に沿った基本的な滅菌操作ができる。 <p>III. 授業計画</p> <p>I. 「清潔援助技術」</p> <table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>皮膚粘膜の構造と機能、清潔の意義</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>口腔ケア・入浴介助・陰部洗浄の基礎知識および援助の実際</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>手浴・足浴・洗髪の基礎知識および援助の実際</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>衣生活の援助技術の基礎知識および援助の実際</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>臥床患者の寝衣交換の実際（演習）</td></tr> <tr><td></td><td>点滴中の患者の寝衣交換の実際（演習）</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>清拭の基礎知識および援助の実際</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>清拭の援助方法実施計画（グループワーク）</td></tr> <tr><td>第 8～10回</td><td>演習（清拭・手浴・足浴・洗髪）</td></tr> </table> <p>II. 「感染予防」</p> <table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>感染防止の基礎知識・標準予防策・感染経路別予防策</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>洗浄・消毒・滅菌</td></tr> <tr><td></td><td>感染性廃棄物の取り扱い</td></tr> <tr><td>第 3 回～4 回</td><td>無菌操作・ガウンテクニック・滅菌手袋装着演習</td></tr> </table>			第 1 回	皮膚粘膜の構造と機能、清潔の意義	第 2 回	口腔ケア・入浴介助・陰部洗浄の基礎知識および援助の実際	第 3 回	手浴・足浴・洗髪の基礎知識および援助の実際	第 4 回	衣生活の援助技術の基礎知識および援助の実際	第 5 回	臥床患者の寝衣交換の実際（演習）		点滴中の患者の寝衣交換の実際（演習）	第 6 回	清拭の基礎知識および援助の実際	第 7 回	清拭の援助方法実施計画（グループワーク）	第 8～10回	演習（清拭・手浴・足浴・洗髪）	第 1 回	感染防止の基礎知識・標準予防策・感染経路別予防策	第 2 回	洗浄・消毒・滅菌		感染性廃棄物の取り扱い	第 3 回～4 回	無菌操作・ガウンテクニック・滅菌手袋装着演習
第 1 回	皮膚粘膜の構造と機能、清潔の意義																												
第 2 回	口腔ケア・入浴介助・陰部洗浄の基礎知識および援助の実際																												
第 3 回	手浴・足浴・洗髪の基礎知識および援助の実際																												
第 4 回	衣生活の援助技術の基礎知識および援助の実際																												
第 5 回	臥床患者の寝衣交換の実際（演習）																												
	点滴中の患者の寝衣交換の実際（演習）																												
第 6 回	清拭の基礎知識および援助の実際																												
第 7 回	清拭の援助方法実施計画（グループワーク）																												
第 8～10回	演習（清拭・手浴・足浴・洗髪）																												
第 1 回	感染防止の基礎知識・標準予防策・感染経路別予防策																												
第 2 回	洗浄・消毒・滅菌																												
	感染性廃棄物の取り扱い																												
第 3 回～4 回	無菌操作・ガウンテクニック・滅菌手袋装着演習																												
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社 写真でわかる 実習で使える看護技術 インターメディカ</p> <p>プリント、ビデオなどを参考に講義</p>																												
評価方法	基本的には演習、レポート、終講試験の成績による。																												
備考																													

授業科目	与薬の援助技術	担当者	島津めぐみ
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	15	講義 10 ・ 演習 5
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 診療に伴う援助技術		
授業の目標および授業計画	<p>授業目的 診療に伴う看護技術を理解する。</p> <p>授業目標 1. 薬物療法の目的・意義について理解できる。 2. 薬における看護師の位置づけ、および各職種の役割を理解できる。 3. 薬物の投与方法とそれぞれの特徴を理解できる。</p> <p>授業計画 第1～2回 薬物療法の意義、薬物療法の基礎的知識 薬物療法における看護の役割 第3回 正しい薬剤の投与、与薬後の状態評価 第4回 内服薬の投与方法（事例を活用して） 第5回 各注射法について DVD使用 第6～7回 皮下・筋肉内・静脈内注射をモデル人形で実施 輸血 第8回 終講試験</p>		
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社 写真でわかる 実習で使える看護技術 インターメディカ</p> <p>プリント、ビデオなどを参考に講義</p>		
評価方法	基本的には演習、レポート、終講試験の成績による。		
備考			

授業科目	看護の思考と行動の道筋	担当者	穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義24・演習6
	実務経験	有	看護師
区分	その実務経験を生かして行う教育内容 患者理解 看護の思考過程 看護過程展開方法		
授業の目標および授業計画	<p>目的 看護の対象者を理解し、必要な看護の考え方がわかる</p> <p>目標 1. 看護の対象を理解する。 2. 看護の思考過程がわかる。 3. 看護の展開方法がわかる。 4. 紙上事例を用いて看護過程を展開できる。</p> <p>授業計画 第1回 看護とは 看護過程の意義 第2回 看護過程の各段階 看護理論 第3回 ①アセスメント/情報収集 事例を用いて情報を捉える 第4回 ②アセスメントの枠組み 第5回 ③アセスメント/分析 情報の分析解釈 カテゴリー毎にS・Oの分類、情報のクラスタリングを行う ニードの充足・未充足について考える 第6回 ③アセスメント/分析 情報の分析解釈 第7回 ③アセスメント/分析 情報の分析解釈 第8～9回 関連図を書くことで問題点・力を導き出す 第10回 看護診断・目標の設定 達成基準を考える 第11回 目標達成するための計画を考える 第13回 個別性を踏まえた計画であるか評価する 第14回 記録方法 第15回 SOAP記録</p>		
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門からみた基礎	基礎看護技術 I 疾患別看護過程 症状別看護過程	医学書院 医学書院 医学書院
評価方法	終講試験 (30%) 看護過程展開レポート (70%)		
備考			

授業科目	生体モニタリングと救命救急処置	担当者	村下 清美
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	15	講義9・演習6
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 生体情報のモニタリングの意義と看護の実際 救命救急を必要とする対象への看護技術		
授業の目標および授業計画	<p>目標 生体情報のモニタリングについて理解し、看護の実際を学ぶ 救命救急を必要とする対象への看護技術について学ぶ</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 クリティカルケア看護とは クリティカルケア看護の場 クリティカルケア看護の対象</p> <p>第2回 観察とアセスメント 使用する物品、アセスメントの特徴、緊急検査</p> <p>第3回 急変時の対応 ・急変時の初期対応 ・院内の救急体制 ・急変時における看護師の役割 ・急変に備えた準備</p> <p>第4回 心肺停止状態への対応 BLS一次救命処置 心肺停止状態への対応 ALS二次救命処置</p> <p>第5回 生体情報のモニタリング (心電図モニター、12誘導心電図、観血的動脈圧モニター、中心静脈カテーテル)</p> <p>第6～7回 生体情報のモニタリング 診察・検査・処置の看護 救急時の看護技術 <演習>12誘導心電図、気管内挿管介助、静脈血採血</p>		
使用教材および参考文献	<p>系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 写真でわかる 実習で使える看護技術 インターメディカ 看護技術プラクティス 学研メディカル秀潤社</p>		
評価方法	小テスト 終講テスト		
備考			

授業科目	地域での暮らしを知る	担当者	赤崎 里美
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義14 演習16
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 看護の対象者を生活者として理解し、暮らしと健康の関係 地域共生社会」および地域包括ケアシステムの理解		
授業の目標および授業計画	【授業目標】 地域で暮らす人々の生活と多様性を理解し、地域の環境が人々の生活や健康へ及ぼす影響を学ぶ。		
	【授業計画】		
	1～2回	人々の暮らしと地域・在宅看護 1. 人々の暮らしの理解 ①暮らしとは ②暮らしと健康の関係 ③暮らしのなかで健康をとらえる	
	3～5回	2. 地域・在宅看護の役割 ①地域・在宅看護の基盤となる考え方 ②地域・在宅看護に求められる役割 暮らしの基盤としての地域の理解 1. 暮らしと地域 ①地域とは ②人々の暮らす地域の多様性 2. 暮らしと地域を理解するための考え方 ①システム理論 ②システム思考 3. 地域包括ケアシステムと地域共生社会 ①地域包括ケアシステム ②地域共生社会	
	6回	地域の特性を知る	
	7～9回	地区踏査 地区踏査での学び	
	10～11回	地域・在宅看護の背景 1. 生活と健康をめぐる動向 ①人口・世帯に関する動向 ②健康に関する動向 ③医療・介護提供体制の方向性	
	12～14回	人口や疾病構造の変化がもたらす影響について話し合う。 地域の住民組織による支え合いについて実際の取り組みを見学実習	
	15回	総講義試験	
	使用教材および参考文献	テキスト 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院 参考文献 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 1 地域療養を支えるケア メディカ出版	
評価方法	ワーク、演習、プレゼンテーション、終講試験の成績により評価する。		
備考			

授業科目	在宅で療養・生活する人とその家族の理解		担当者	西 美恵子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義15	1年次・後期
	実務経験	有	看護師・保健師	
その実務経験を生かして行う教育内容	地域・在宅で暮らす療養者とその家族の特性 地域・在宅看護の変遷			
授業の目標および授業計画	【授業目標】 1. 地域・在宅看護の基盤となる基本理念と在宅看護に特有な倫理的問題について理解する。 2. 地域・在宅看護の対象者の多様性と、家族のとらえ方を学び、地域・在宅看護の役割を理解する。 3. 暮らしの中のリスク・災害における地域・在宅看護の役割を理解する。			
	【授業計画】 1回 地域・在宅看護の概念 地域・在宅看護を展開するための基本理念（アドボカシー、パートナーシップ、ストレングス）/地域・在宅看護における倫理 2～7回 地域・在宅看護の対象 1. 地域・在宅看護の対象者 2. 家族の理解 3. 地域に暮らす対象者の理解と看護 地域における暮らしを支える看護 1. 暮らしを支える地域・在宅看護 2. 暮らしの環境を整える看護 3. 広がる看護の対象と提供方法 4. 地域における家族への看護 5. 地域における地域におけるライフステージに応じた看護 6. 地域での暮らしにおけるリスクの理解 7. 地域での暮らしにおける災害対策 8回 終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト：地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1 医学書院 参考文献：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論1 地域療養を支えるケア メディカ出版 厚生指標 国民衛生の動向 「これからの在宅看護論」「家族看護を基盤とした在宅看護論」 VTR：「在宅看護の基礎」「よくわかる介護保険制度」「訪問看護総論」			
評価方法	終講試験、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。			
備考	時間外学習 予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない個所を明確にする。関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。			

授業科目		成人期の理解		担当者		森山 ゆきみ	
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別	
	1	30	講義			1年次 後期	
	実務経験	有		看護師			
	その実務経験を生かして行う教育内容 成人各期の健康の保持増進・疾病の予防と健康レベルの回復に応じた看護						
授業の目標および授業計画	<p>成人の身体的機能の変化ならびに心理・社会的特性を理解する。 成人を取り巻く環境と発達段階に応じた健康上の課題と対策を理解する。 成人の健康レベルに応じて活用される理論・モデルを理解する。</p> <p>第1回 成人期の特徴(青年期・壮年期・中年期) ～2回 第3回 成人を取り巻く環境 第4回 成人の健康状況 第5回 生活習慣に関連する健康障害 ～6回 生活と健康をまもり育むシステム 第7回 ワーク・ライフ・バランスと健康障害 労働者と健康障害 労働者を守り育むシステム 第8回 ストレスと健康障害 第9回 成人看護の目的と方法 第9回 慢性病と共に生きる人の理解 ～14回 成人の看護に適応する看護理論およびモデル 病みの軌跡 行動変容理論 適応を促す理論 喪失と悲嘆を支える理論 人生最後の時を過ごしている人の理解と支援 自己(意思)決定</p> <p>第15回 終講試験 まとめ</p>						
	使用教材および参考文献	<p>テキスト 系統看護学講座 専門 成人看護学総論 医学書院</p> <p>適宜資料を配布する。</p>					
評価方法	終講テスト80%、課題・講義への参加度など20%						
備考							

授業科目	老年期の理解	担当者	穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義26・演習4
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 老年期の身体的・精神的・社会的変化 老年看護の機能と役割 老年者の保健・医療・福祉		
授業の目標および授業計画	<授業目標> 1. 老年期の身体的・精神的・社会的変化を理解し、老年看護の対象が理解できる 2. 老年者の健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割が理解できる。 3. 老年者の保健・医療・福祉の場における課題が理解できる。		
	<授業計画> 1回 老年期とは 加齢と老化 高齢社会（高齢者の生活・暮らし） 2～3回 高齢者模擬体験 4回 高齢者模擬体験から得たもの 5～6回 社会保障（医療保険・介護保険） 施設サービス・居宅サービス 7～8回 高齢社会における権利擁護 9回 老年看護とは 10～14回 高齢者の生理的特徴・アセスメント ①外皮系 ②感覚器系 ③循環器系・呼吸器系 ④消化器系 ⑤腎・泌尿器系、性・生殖系 ⑥内分泌・代謝系 ⑦運動器系 ⑧認知機能 15回 終講試験		
使用教材および参考文献	<テキスト> 系統看護学講座 専門 老年看護学 系統看護学講座 専門 老年看護・病態・疾患論 医学書院 <参考文献> 国民衛生の動向		
評価方法	以下を総合して評価する 1) レポート20% 2) 終講試験評価80%		
備考			

	授業科目	老年看護の基本技術	担当者	牧元 智美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義13・演習2	1年次 後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 老年看護の基本的看護技術 高齢者の日常生活行動の援助方法			
授業の目標および授業計画	授業目標			
	老年看護の基本的技術及び高齢者の日常生活行動に必要な援助の方法が理解できる。			
	授業計画			
	第1回 高齢者とのコミュニケーション技術について 加齢に伴うコミュニケーション障害（難聴、白内障、失語症等）			
	第2回 日常生活を支える基本的活動について 基本動作、日常生活動作、転倒の要因と予防、転倒時のケアと再発予防			
	第3回 高齢者と生活リズムについて 概日リズム、レム睡眠とノンレム睡眠、睡眠障害とその対応 高齢者に対する睡眠薬投与とそのケア			
	第4回 高齢者に起こりやすい栄養障害とその対応について 高齢者に特徴的な変調、食生活アセスメントと支援、胃瘻について			
	第5回 演習 口腔ケア（STによる講話・演習）			
使用教材および参考文献	第6回 高齢者の排泄ケアについて 尿失禁・便失禁について、骨盤底筋訓練、膀胱訓練、おむつ外し おむつ使用時の援助について			
	第7回 高齢者に生じやすい皮膚障害と清潔ケア 褥創予防とその評価とケア			
	<使用教材> テキスト 系統看護学講座 専門 老年看護学 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 DVD 摂食・嚥下のメカニズム ー解剖・生理編ー <参考文献> テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ			
評価方法	1) レポート10% 2) 終講試験評価90%			
備考				

授業科目		子どもとその家族の理解		担当者	吉川美代子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義24 ・ 演習6		1年次・後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 小児看護の対象、目的と役割 子どもに関連する動向と医療・保健・福祉 子どもの成長と発達				
授業の目標および授業計画	【学習目標】				
	小児各期の成長・発達の特徴や子どもと家族を取り巻く環境、社会の変化を理解し、小児看護の役割や課題について学ぶ。				
	【授業計画】				
	第1次	小児看護の対象の理解			(講義)
	第2次	子どもの人権と看護			(講義・ワーク)
	第3次	小児看護の今、目標と役割			(講義)
	第4次	子どもをめぐる初統計			(講義・ワーク)
	第5次	子どもと家族を取り巻く社会			(協同学習)
	第6次	子どもと家族を取り巻く社会			(講義)
	第7次	成長発達1	成長発達の原則	形態的・機能的	(講義)
	第8次	成長発達2	情緒		(講義)
	第9次	成長発達3	あそび		(講義)
	第10次	成長発達4	家族・環境		(講義)
	第11次	成長発達5	栄養・評価		(講義)
	第12次	新生児期・乳児期			(講義・ワーク)
	第13次	幼児期			(講義・ワーク)
	第14次	学童期・思春期			(講義・ワーク)
第15次	終講試験				
第16次	終講試験				
使用教材および参考文献	系統看護学講座	小児看護学	[1]	医学書院	
	国民衛生の動向			厚生統計協会	
	*その他	適宜資料を配布する			
評価方法	出席状況、事前課題やレポートの提出状況、授業参加態度、演習内容、終講試験から総合的に判断				
備考					

授業科目		母性の理解		担当者		白石 睦	
区分	単位数	時間数	授業形態			履修年次・前/後期別	
	1	15	講義15			1年次・後期	
	実務経験	有		看護師			
	その実務経験を生かして行う教育内容 母性看護の対象の身体・心理・社会的側面 母性に関する動向や保健制度 母性看護の特徴						
授業の目標および授業計画	<p><授業目標> リプロダクティブヘルスの概念を理解し、その上で女性の一生を通じた健康の保持・増進と、次世代の子どもを健やかに育成するための母性機能の健全な発達を促すために、母性看護が果たす役割と課題について学ぶ。</p>						
	<p><授業計画></p> <p>第1回 性・母性の概念 第2回 母性看護の歴史、母子保健の動向 第3回 母子保健にかかわる法律と施策 第4回 性周期と妊娠の成立 第5回 女性のライフステージ各期における特徴と健康問題 第6回 人工妊娠中絶と生殖補助医療、家族計画について 第7回 ドメスティックバイオレンスと児童虐待、メンタルヘルス問題への支援 第8回 終講試験</p>						
使用教材および参考文献	<p><テキスト> 系統看護学講座 母性看護学 [1] 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会</p>						
評価方法	終講試験100%						
備考							

授業科目		精神の健康の保持・増進		担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義22・演習8		1年次 後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神看護の目的、対象、機能と役割 精神の健康に影響を与える要因 精神の健康の保持・増進にかかわる保健活動				
授業の目標および授業計画	<p>授業の目標</p> <p>1. 精神看護の目的、対象、機能と役割について理解する。 2. 精神の健康に影響を与える要因を理解し、精神の健康の保持・増進にかかわる保健活動について学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <p>1回目：講義 精神看護学の位置づけ・目的・対象 精神の健康・不健康</p> <p>2回目：演習 生活の場と精神保健①</p> <p>3回目：演習 生活の場と精神保健②</p> <p>4回目：演習 生活の場と精神保健③</p> <p>5回目：演習 生活の場と精神保健④</p> <p>6回目：講義 精神の機能（自我の機能・防衛機制・精神力動・転移感情）</p> <p>7回目：講義 精神の発達と危機①</p> <p>8回目：講義 精神の発達と危機②</p> <p>9回目：講義 ストレス（セリエ）とコーピング（ラザルス）</p> <p>10回目～11回目 ：講義 危機の概念（カプラン）・危機の予防（アギュレラ・メゼック） DVD『ラビットホール』</p> <p>12回目：講義 危機介入（災害時の精神保健）</p> <p>13回目：講義 家族システム・家族支援</p> <p>14回目：講義 精神科以外での精神看護（身体疾患をもつ患者の精神保健・保健医療福祉に従事する者の精神保健・リエゾン精神看護）</p> <p>15回目：終講試験</p>				
	使用教材および参考文献	<p><テキスト></p> <p>「系統看護学講座 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎」医学書院 「系統看護学講座 精神看護学〔2〕 精神看護の展開」医学書院</p> <p><参考文献></p> <p>国民衛生の動向. 厚生労働統計協会</p> <p><資料・その他></p> <p>切抜き速報健康りてらしい ニホン・ミック DVD『ラビットホール』</p>			
評価方法	<p>以下の結果を総合して評価する</p> <p>1) 課題レポート 10点 2) 演習 20点 3) 終講試験 70点</p>				
備考					

授業科目	病院における看護の場と人を知る実習		担当者	島津 めぐみ
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	45	実習45	1年次・後期
	実務経験	有		看護師
区分	その実務経験を生かして行う教育内容 患者理解 日常生活援助技術 コミュニケーション技術			
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的</p> <p>1. 病院施設の概要、看護の対象の入院環境と療養環境を知り、助言を得ながら必要な日常生活行動の援助ができる。</p> <p>II. 目標</p> <p>1. 病院・各部署の概要がわかる。 2. 入院の生活環境がわかる。 3. 看護活動の実際がわかる。 4. 対象とのコミュニケーションができる。 5. 看護職チームや多職種とのかかわり連携について知ることができる。 6. 看護を学ぶ意欲を高めることができる。</p> <p>III. 実習内容</p> <p>1. オリエンテーションを受ける。 2. 看護援助の見学 3. 受け持ち患者とのコミュニケーションの実施。 4. 指導者とともに看護活動を実践する。 5. 看護技術 1) コミュニケーションの技術 2) 対象把握の技術 (バイタルサイン) 3) 日常生活行動を支える技術 4) 安全・安楽の技術 5) 観察・記録</p> <p>IV. 実習場所 医療法人愛誠会 昭南病院 霧島市立 医師会医療センター 鹿児島医療生活協同組合 国分生協病院</p>			
履修要件	開講している専門分野の基礎看護学の単位を取得もしくは取得見込みであること			
授業の進め方	「病院における看護の場と人を知る実習」要項に基づき実習を行う。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、既定の評価表に基づいて評価する			
備考				

授業科目		地域での暮らしを支える看護		担当者	西 美恵子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		2年次前期
	実務経験	有		看護師・保健師	
その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅で療養・生活する人とその家族のニーズに基づいた生活行動への支援					
授業の目標および授業計画	<p>【授業目標】 在宅で療養する人とその家族を対象とし、日常生活援助、医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を理解する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>1～2回 在宅療養を支える訪問看護 訪問看護制度のあゆみ/訪問看護の特徴/訪問看護の対象者の特徴/訪問看護の利用者と訪問回数</p> <p>3～7回 暮らしを支える看護技術 暮らしの場で看護をするための心構え/セルフケアを支える対話・コミュニケーション/地域・在宅看護における家族を支える看護 在宅看護における安全性の確保（医療事故防止） 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策/地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント 信頼関係の形成と療養者・家族の意思決定プロセスへの支援 地域における暮らしを支える看護実践 療養環境調整/活動・休息/食生活・嚥下/排泄/創傷管理/与薬</p> <p>8回 終講試験</p>				
	使用教材および参考文献	<p>テキスト：地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2 医学書院 参考文献：ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 「よくわかる在宅看護」 学研</p>			
評価方法	終講試験、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。				
備考	時間外学習 予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない個所を明確にする。関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。				

授業科目		地域での暮らしを支える多職種連携		担当者	赤崎 里美
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義 7 ・ 演習 8		2年次後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅看護における多職種の役割 多職種との連携・協働を基盤としたケアマネジメント				
授業の目標および授業計画	<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護における多職種の役割を理解する。 2. 多職種連携・協働を基盤としたケアマネジメントを理解する。 <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 地域・在宅における多職種の役割と連携・協働 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働 2～3回 地域・在宅看護マネジメント <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護マネジメントとは 2. 多様な場における地域・在宅看護マネジメント <ol style="list-style-type: none"> ①退院支援・退院調整 ②介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメント ③地域住民とともに行う地域・在宅看護マネジメント 4回 霧島市地域包括支援センターにおける業務の実際、職種間連携 5～7回 事例に基づき多職種連携、協働のあり方を考える 8回 終講試験 				
使用教材および参考文献	<p>テキスト：地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2 参考文献：ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア 「よくわかる在宅看護」 学研</p>				
評価方法	終講試験、演習、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。				
備考	時間外学習 予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない箇所を明確にする。関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。				

授業科目		地域での暮らしを支える 看護実践プロセスⅠ		担当者	西 美恵子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		2年次 前・後期
	実務経験	有		看護師・保健師	
その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅で療養・生活する人とその家族への看護の展開方法					
授業の目標および授業計画	<p>【授業目標】 さまざまな事例から、療養者とその家族を取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際を理解する。 既存の看護の知識を応用し、対象に必要な在宅看護の展開方法を理解する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>1～2回 在宅看護の実際 在宅看護介入時期別の特徴 訪問看護における看護過程の特徴 訪問看護過程の実際 家庭訪問 初回訪問 訪問看護の記録</p> <p>3～7回 対象に応じた地域・在宅看護の展開・社会資源・看護技術</p> <p>1) 最期まで自宅で過ごしたいターミナル期のがん療養者 2) 在宅での生活に不安を抱きつつ退院するALS療養者 3) 老老介護であるパーキンソン病療養者：ADLの低下、再発予防 4) 日中独居の認知症療養者：認知症</p> <p>8回 終講試験</p>				
使用教材および参考文献	<p>テキスト：地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2 参考文献：ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 「よくわかる在宅看護」 学研</p>				
評価方法	終講試験、事前課題・レポート課題への取り組み状況、授業への参加状況などから総合的に判断する。				
備考	<p>時間外学習 予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない個所を明確にする。 関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。</p>				

授業科目		地域での暮らしを支える 看護実践プロセスⅡ	担当者	赤崎 里美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	演習15	2年次 前・後期
	実務経験	有	看護師	
その実務経験を生かして行う教育内容 地域で療養生活を送る人と家族の看護を学ぶ。				
授業の 目標 および 授業 計画	【授業目標】 1. 在宅療養者の病期、病態、障害の特徴に応じた看護が理解できる。 2. 在宅で療養する療養者と介護者および家族が、地域で療養生活を継続するための支援が理解ができる。 3. 地域で療養している人やその家族の現状と課題、健康上のニーズを理解できる。 4. 在宅看護に必要な法律や制度、社会資源、他職種との連携や協働を探求することができる。 【授業内容】 1～3回 事例を用いた在宅療養支援の看護展開 4回 訪問看護ステーションに関する規定/訪問看護の利用までの手順/訪問看護の費用/訪問看護サービスの提供/ケアマネジメントと社会資源の活用 5～7回 仮想の訪問看護ステーションを設立 8回 仮想の訪問看護ステーションをプレゼンテーション			
使用 教材 および 参考 文献	テキスト：地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論① 医学書院 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論② 医学書院 参考文献：ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術			
評価 方法	事前課題・課題への取り組み状況、演習発表にて総合的に判断する。			
備考	時間外学習 予習においてテキストの該当頁、関連書籍を熟読し、理解できない個所を明確にする。 関連動画がある場合は視聴する。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて学習した内容を整理し、理解を深める。			

授業科目	循環器・呼吸器の機能障害をもつ人の看護		担当者	森山 ゆきみ
区分	単位数	時間数	授業形態	
	1	30	講義	
	実務経験	有		看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 循環器・呼吸器の機能障害をもつ成人の看護			
授業の目標および授業計画	<p>循環器・呼吸器の機能障害をもつ成人への看護実践について学ぶ。</p> <p>[呼吸機能障害をもつ患者の看護]</p> <p>第1回 咳嗽・喀痰のある患者の看護 ～2回 咯血・呼吸困難のある患者の看護</p> <p>第3回 気管支鏡検査を受ける患者の看護 第4回 人工呼吸器を装着する患者の看護 第5回 胸腔ドレナージを受ける患者の看護 第6回 肺切除術を受ける患者の看護（開胸・胸腔鏡下） 第7回 化学療法を受ける患者の看護 ～8回 放射線療法を受ける患者の看護</p> <p>[循環器に障害のある患者の看護]</p> <p>第9回 胸痛のある患者の看護 ～10回 心臓カテーテル検査・PCI治療を受ける患者の看護 第11回 冠動脈バイパス術を受ける患者の看護 IABP治療を受ける患者の看護 ～12回 ペースメーカを装着した患者の看護 第13回 冠症候群（ACS）患者の看護 ～14回 慢性心不全患者の看護 第15回 終講試験 まとめ</p>			
使用教材参考文献および	<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門 成人看護学[2] 「呼吸器」 医学書院 専門 成人看護学[3] 「循環器」 医学書院</p> <p>根拠がわかる症状別看護過程 南江堂 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディカ</p> <p>適宜資料を配布する。</p>			
評価方法	終講テスト80%、課題・講義への参加度など20%			
備考	専門基礎の呼吸・循環に関する構造と機能・疾病と治療について復習をして臨むこと			

授業科目		運動機能障害をもつ人の看護		担当者	宮原正吾 山下哲史
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義11・演習4		2年次・前期/後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 運動機能障害患者の看護				
授業の目標および授業計画	目標 運動機能障害を持つ患者への看護実践の方法を学ぶ				
	授業計画 I 〈運動器〉				
	第1回	運動機能障害の原因と障害の程度とアセスメント 検査・処置を受ける患者への看護			
	第2回	治療を受ける患者への看護 ギプス固定 牽引法			
	第3回	病期や機能障害に応じた看護 関節リウマチ 椎間板ヘルニア 四肢切断後 変形性膝関節症 骨折			
	第4回	腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 脊髄損傷患者の看護			
	第5回	大腿骨頸部骨折患者の看護			
	第6・7回	演習 良肢位・基本肢位 関節可動域測定 徒手筋力測定 (MMT) 床上訓練 松葉杖・一本杖の長さ 介達牽引 (スピードトラック牽引)			
	第8回	終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座		専門分野 運動器	成人看護学	[10] 医学書院
評価方法	出席状況・終講試験・レポートによる				
備考					

授業科目		腎・泌・生殖器の機能障害をもつ人の看護		担当者	森 隆徳
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		2年次・前期/後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容				
腎機能障害患者の看護					
授業の目標および授業計画	目標 腎・泌・生殖器の機能障害を持つ人への看護実践の方法を学ぶ				
	授業計画				
	第1回	腎泌尿器疾患患者の看護 患者の特徴と看護の役割 症状に対する看護 下部尿路症状 尿の性状異常のある患者の看護			
	第2回	検査を受ける患者の看護 膀胱鏡検査 画像検査 生検を受ける患者の看護			
	第3回	泌尿器科的治療を受ける患者の看護 膀胱・前立腺・尿路結石			
	第4回	内科的治療を受ける患者の看護			
	第5回	慢性腎不全の患者の看護			
	第6回	血液透析を受ける患者の看護			
	第7回	透析導入期の患者の看護 (事例)			
	第8回	終講試験			
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 「腎・泌尿器」 医学書院 VTR : 「安全な透析を行うための工夫」「シャントの日常管理」 DVD : 「慢性腎臓病と腎性貧血」				
評価方法	出席状況・終講試験・レポートによる				
備考					

授業科目		内分泌・栄養代謝機能障害をもつ人の看護		担当者	森山 ゆきみ
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義24・演習6		2年次 後期
	実務経験	有		看護師	
その実務経験を生かして行う教育内容 内分泌・栄養代謝に障害を持つ患者の看護					
授業の目標および授業計画	<p>内分泌・栄養代謝に機能障害をもつ成人への看護実践の方法を学ぶ。</p> <p>第1回 消化・吸収障害のおもな検査を受ける患者の看護 ～2回 肝生検 内視鏡検査 造影検査 ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影法）</p> <p>第3回 食道切除術を受ける患者の看護 ～5回 胃切除術を受ける患者の看護 第6回 ストーマ造設術を受ける患者の看護 ～7回 ストーマ造設患者への生活指導 第8回 肝・胆嚢疾患の看護 ～9回 肝動脈塞栓術 RFA 内視鏡的治療（食道静脈瘤） 肝切除術 腹腔鏡下胆嚢摘出術（LAP-C） 胆汁ドレナージ</p> <p>第10回 下垂体切除術を受ける患者の看護 バセドウ病患者の看護 甲状腺機能低下症の看護 第11回 甲状腺切除術を受ける患者の看護 第12回 2型糖尿病患者の看護 ～14回 ・食事療法・運動療法・薬物療法、血糖測定・インスリン注射、 急性合併症への対応、フットケア 第15回 終講試験 まとめ</p>				
使用教材および参考文献	<p>テキスト 系統看護学講座 専門 成人看護学[5]「消化器」 医学書院 専門 成人看護学[6]「内分泌・代謝」 医学書院 根拠が分かる症状別看護過程 南江堂 写真でわかる実習で使える看護技術 インターメディカ</p> <p>適宜資料を配布する。</p>				
評価方法	終講テスト：80%、課題・講義への参加度：20%				
備考	専門基礎の消化器・内分泌の構造と機能、疾病と治療について復習をして臨むこと				

授業科目		生体防御・感覚機能障害をもつ人の看護		担当者	吉永篤司・島津めぐみ	
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別	
	1	30	講義30		2年次 前期・後期	
	実務経験	有		医師・看護師		
	その実務経験を生かして行う教育内容 生体防御機能の障害や感覚機能障害をもつ対象の看護					
授業の目標および授業計画	授業目標 生体防御機能の障害や感覚機能障害をもつ対象の看護を学ぶ。					
	授業計画					
	第1回	アレルギーの看護を学ぶにあたって 免疫のしくみとアレルギー				
	第2回～第3回	アレルギー検査と治療 アレルギー症状と疾患の理解				
	第4回	感染症の看護を学ぶにあたって 感染症とは				
	第5回～第6回	感染症の検査・診断 感染症の治療 感染症の疾患の理解				
	第7回	感染予防				
	第8回～第9回	膠原病の症状とその病態 膠原病疾患患者の治療と看護				
	第10回～第11回	免疫機能低下の看護 1. 白血病の復習 2. 骨髄穿刺時の看護 3. 骨髄移植、幹細胞移植術の看護 4. 移植時の倫理的配慮				
	第12回～第14回	感覚機能障害を持つ患者の看護 1. 眼疾患患者の観察とアセスメント 1) 主な看護 (1) 視機能に関連した症状の看護 (2) 治療（点眼法、光凝固） (3) 網膜剥離の看護 (4) 角膜移植の看護				
	第15回	終講試験				
	使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 成人看護学		専門分野Ⅱ 〔4〕 「血液・造血器疾患」 〔11〕 「アレルギー・膠原病・感染症」 〔13〕 「眼科疾患患者の看護」		医学書院
	評価方法	基本的には終講時の試験の成績による。				
	備考					

授業科目	成人の健康レベルに応じた看護	担当者	二川 妙子・小林 聖子 池田 歩美・西山 智美
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義30
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 成人の健康レベルに応じた看護（急性期 回復期 慢性期 終末期）		
授業の目標および授業計画	目標	成人の健康レベルに応じた看護（急性期 回復期 慢性期 終末期）について学ぶ	
	授業計画	I 第1回～6回 クリティカルケアとは 看護の対象（患者・家族）の理解 急性期の看護（集中治療） 救急看護（救急外来） 回復期とは 回復期の看護の対象（患者・家族）の理解、看護の展開 慢性期とは 慢性期の看護の対象（患者・家族）の理解、看護の展開 リハビリテーション看護 看護の対象（患者・家族）の理解、看護の展開 経過別リハビリテーションの目的と看護のポイント	
		II 第7回～10回 終末期：人生の最期を迎える人と家族に寄り添う看護 終末期にある患者・家族の理解 医療の目的と場の特性、多職種連携と看護の役割 終末期に生じる身体的特徴・症状に対する緩和ケア 倦怠感 がん性疼痛 終末期における倫理的問題 臨死期の看護 看護師自身のケア（医療従事者のグリーフケア）	
	III 第11～14回 周術期看護 周術期にある患者・家族の特徴、手術侵襲と生体反応 手術前期の看護 〔術前検査、情報収集、アセスメント、合併症のリスクと予防的ケア、術前準備、オリエンテーション〕 手術期の看護〔麻酔の種類と特徴 生体保護 術中のリスク		
使用教材および参考文献	系統看護学講座	クリティカルケア看護学 リハビリテーション看護 臨床外科看護各論 救急看護学 がん看護学 緩和ケア	別巻 別巻 別巻 別巻 別巻 別巻
評価方法	終講試験 I 50% II 20% III 30%		
備考			

授業科目		高齢者の健康レベル に応じた援助方法	担当者	穂山 みどり 吉田 小百合
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	2年次 前期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 健康障害を持つ老年者の理解 健康レベルに応じた援助方法			
授業の 目標 および 授業 計画	<p><授業の目標> 健康障害を持つ老年者を理解し、健康レベルに応じた援助方法を理解する。</p> <p><授業計画></p> <p>1～5回 高齢者によくみられる身体症状 発熱、熱中症、脱水、 嘔吐、浮腫、せん妄、感染症</p> <p>6～7回 認知症を理解するために</p> <p>8～9回 高齢者の主な疾患と看護 ①認知症：認知機能の障害に対する看護</p> <p>10～11回 高齢者の主な疾患と看護 ②脳血管障害：脳血管障害に対する看護</p> <p>12～13回 高齢者の主な疾患と看護 ③パーキンソン病・パーキンソン症候群：パーキンソン病に対する看護</p> <p>14回 検査・治療を受ける高齢者への看護 薬物療法をうける高齢者への看護</p> <p>15回 エンドオブライフケア 講義</p> <p>16回 終講試験</p>			
使用 教材 および 参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 専門 老年看護学 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院 根拠がわかる症状別 看護過程 南江堂</p>			
評価 方法	<p>レポート 20% 終講試験評価 80%</p>			
備考				

授業科目		老年期の患者の 看護過程 事例展開		担当者	穂山 みどり																		
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別																		
	1	30	講義12・演習18		2年次 前期																		
	実務経験	有		看護師																			
	その実務経験を生かして行う教育内容 老年期の患者の看護過程の事例展開																						
授業の 目標 および 授業 計画	<p><授業目標></p> <p>老年期の患者の事例を通して看護過程を展開する方法が理解できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患病態生理、症状、治療、検査、看護の要点が理解できる。 2. 情報を老年期の特徴を踏まえて解釈・分析し、文章化できる。 3. 情報の解釈・分析の結果から対象の持つ問題点と力・関連因子が抽出できる。 4. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を踏まえ、関連図に患者の全体像が描ける。 5. 看護診断し優先度を考慮してプロブレムリストが作成できる。 6. RUNBAの法則、5W2Hを考慮し初期計画が立案できる。 7. 事例のアセスメントから計画立案を通して、患者の看護が理解できる。 <p><授業計画></p> <table> <tr> <td>1回</td> <td>事例提示、事例の説明、事例の看護の視点、方向性について</td> </tr> <tr> <td>2～3回</td> <td>情報の整理</td> </tr> <tr> <td>4～10回</td> <td>情報の解釈・分析</td> </tr> <tr> <td>11～12回</td> <td>関連図 プロブレムの抽出 プロブレムリストの作成（優先順位を考える）</td> </tr> <tr> <td>13～14回</td> <td>看護計画を立てる（全ての#について） 短期目標、達成基準を明確にする 講義・個人ワーク</td> </tr> <tr> <td>15回</td> <td>SOAP記録について 講義・個人ワーク</td> </tr> </table>					1回	事例提示、事例の説明、事例の看護の視点、方向性について	2～3回	情報の整理	4～10回	情報の解釈・分析	11～12回	関連図 プロブレムの抽出 プロブレムリストの作成（優先順位を考える）	13～14回	看護計画を立てる（全ての#について） 短期目標、達成基準を明確にする 講義・個人ワーク	15回	SOAP記録について 講義・個人ワーク						
	1回	事例提示、事例の説明、事例の看護の視点、方向性について																					
2～3回	情報の整理																						
4～10回	情報の解釈・分析																						
11～12回	関連図 プロブレムの抽出 プロブレムリストの作成（優先順位を考える）																						
13～14回	看護計画を立てる（全ての#について） 短期目標、達成基準を明確にする 講義・個人ワーク																						
15回	SOAP記録について 講義・個人ワーク																						
使用 教材 および 参考 文献	<p><テキスト></p> <table> <tr> <td>系統看護学講座 専門</td> <td>老年看護学</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座 専門</td> <td>老年看護 病態・疾患論</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>NANDA-I 看護診断</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>疾患別 看護過程の展開</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>症状別 看護過程</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>検査値早わかりガイド</td> <td></td> <td>サイオ出版</td> </tr> </table>					系統看護学講座 専門	老年看護学	医学書院	系統看護学講座 専門	老年看護 病態・疾患論	医学書院	NANDA-I 看護診断		医学書院	疾患別 看護過程の展開		医学書院	症状別 看護過程		医学書院	検査値早わかりガイド		サイオ出版
系統看護学講座 専門	老年看護学	医学書院																					
系統看護学講座 専門	老年看護 病態・疾患論	医学書院																					
NANDA-I 看護診断		医学書院																					
疾患別 看護過程の展開		医学書院																					
症状別 看護過程		医学書院																					
検査値早わかりガイド		サイオ出版																					
評価 方法	ワークへの取り組み姿勢・意欲・記録の提出状況・文献活用状況・時間管理・記録管理を総合して評価する																						
備考																							

授業科目		子どもの疾病と治療		担当者	江口太助・吉川英樹 連利博 他
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	15	講義15		2年次・前期
	実務経験	有		医師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 小児によくみられる疾患や症状				
授業の目標および授業計画	目標 小児によく起こる病気や症状を理解する。				
	回	内容			
	1次	成長と発育	予防接種	染色体異常	新生児疾患
	2次	代謝・内分泌疾患			
	3次	アレルギー疾患 膠原病			
	4次	ウイルス感染症			
	5次	細菌感染症			
	6次	呼吸器疾患 循環器疾患			
7次	腎・泌尿器疾患 神経疾患 皮膚疾患				
8次	終講試験				
使用教材および参考文献	テキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護[2] 医学書院 その他：適宜資料を配布する。				
評価方法	終講試験による。				
備考					

授業科目	子どもの健康問題と看護		担当者	吉川美代子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義24・演習6	2年次・前後期
	実務経験	有		看護師
区分	その実務経験を生かして行う教育内容 健康障害が小児および家族に及ぼす影響 発達段階を考慮した看護 基本的な子どもへの看護技術			
授業の目標および授業計画	【学習目標】			
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階に応じた健康問題と保健指導について理解することができる 2. 疾病や入院が子どもと家族に与える影響と必要な看護について理解できる 3. 基本となる小児看護技術について理解・習得できる 			
授業の目標および授業計画	【授業計画】			
	<p>第1次 発達段階に応じた健康増進のための看護1 事故防止</p> <p>第2次 発達段階に応じた健康増進のための看護2 基本的な生活援助技術</p> <p>第3次 発達段階に応じた健康増進のための看護3 思春期の健康問題</p> <p>第4次 病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護</p> <p>第5次 子どもとのコミュニケーションと意思決定の支援</p> <p>第6次 外来における看護（トリアージ 電話対応 健康診査 皮膚病変） 災害時の看護</p> <p>第7次 救急処置が必要な子どもと家族の看護（誤飲・窒息・熱傷・熱中症）</p> <p>第8次 子どもの感染症とその看護</p> <p>第9次 急性症状を呈する子どもの看護1（発熱・嘔吐・下痢・脱水）</p> <p>第10次 急性症状を呈する子どもの看護2（けいれん・呼吸困難）</p> <p>第11次 子どもの診療に伴う看護技術1（フィジカルアセスメント、身体計測）</p> <p>第12次 子どもの診療に伴う看護技術2（与薬法、採尿、穿刺）</p> <p>第13次 子どもの診療に伴う看護技術3（採血、静脈内点滴、輸液管理）</p> <p>第14次 ハイリスク児と医療的ケア児 発達障害の子どもの看護</p> <p>第15次 終講試験</p>			
使用教材および参考文献	<p>テキスト：系統看護学講座 小児看護学〔1〕， 医学書院</p> <p>系統看護学講座 小児看護学〔2〕， 医学書院</p> <p>DVD：発達障害の理解と支援、小児看護技術</p> <p>*その他：適宜資料を配布する。</p>			
評価方法	出席状況、事前課題やレポートの提出状況、授業参加態度、演習、終講試験から総合的に判断			
備考	事前に提示する課題や共同学習、演習に必要な学習を行って参加すること			

授業科目		疾病や障害をもつ子どもの看護		担当者	吉川美代子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義12・演習18		2年次・後期
	実務経験	有		看護師	
その実務経験を生かして行う教育内容 子どもとその家族の事例を通して看護実践ができる基礎の育成					
授業の目標および授業計画	【学習目標】 様々な状況にある子どもと家族の事例学習を通して問題解決思考を習得することができる				
	【学習計画】 第1次 重症心身障害児の看護 第2、3次 特別支援学校の見学、まとめ 第4次 子どもの虐待と求められるケア 第5次 川崎病の子どもの看護 第6次 子どもの疾患看護演習1 ガイダンス、疾患学習 (気管支喘息、I型糖尿病 ネフローゼ症候群 急性骨髄性白血病) 第7次 周手術期にある子どもと家族の看護 第8次 周手術期の事例検討 第9次 子どもの疾患看護演習2 アセスメント、看護の方向性の決定 第10次 終末期にある子どもと家族の看護 痛みのある子どもの看護 第11次 子どもの疾患看護演習3 看護計画立案 第12次 子どもの疾患看護演習4 看護計画立案、プレパレーション計画 第13次 子どもの疾患看護演習5 プレパレーション作成と発表準備 第14、15次 子どもの疾患看護演習6 発表 第16次 終講試験				
使用参考文献および	テキスト：系統看護学講座 小児看護学 [1] , 医学書院 系統看護学講座 小児看護学 [2] , 医学書院 DVD：発達障害の理解と支援 その他：適宜資料配布				
評価方法	出席状況、事前課題やレポートの提出状況、授業参加態度、演習、終講試験から総合的に判断				
備考					

授業科目	妊婦の看護		担当者	本田 和子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義30	2年次・前期
	実務経験	有	看護師・助産師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 1. 母体と胎児の正常な妊娠経過に伴う変化とその特性 2. 妊婦とその家族に必要な看護（保健指導） 3. ハイリスク妊娠とその看護			
授業の目標および授業計画	目標 1. 母体と胎児の正常な妊娠経過に伴う変化とその特性を理解する 2. 妊婦とその家族に必要な看護（保健指導）を学ぶ 3. ハイリスク妊娠とその看護を学ぶ 回 内 容 1 1. 妊娠期の概観 2. 妊娠とは；A 妊娠期間 B 妊娠期の経過 2 B 妊娠期の経過 3 3. 妊娠に伴う生理的变化と胎児の健康状態に関するアセスメントと援助 A妊婦・胎児のアセスメントの視点 4 B 胎児の発育に伴う母体の変化のアセスメント C 胎児の発育・健康状態のアセスメント 5 C 胎児の発育・健康状態のアセスメント 6 D 妊娠に伴う生理的变化及び不快症状のアセスメント 7 E 妊婦のセルフケア能力を高めるための援助 8 E 妊婦のセルフケア能力を高めるための援助 9 4. 親になっていく過程のアセスメントと援助 A 夫婦関係 B 母親 10 B 母親 C 父親・兄弟・祖父母 11 D 出産・育児に向けた生活の調整 12 ハイリスク妊婦への看護の実際 13 ハイリスク妊婦への看護の実際 14 ハイリスク妊婦への看護の実際 15 終講試験			
使用教材および参考文献	〈テキスト〉 母性看護学Ⅱ， マタニティサイクル， 南江堂 〈参考書〉 母性看護学Ⅰ， 概論・ライフサイクル， 南江堂 母性看護の実際， メディカ出版 母性看護学Ⅱ， 医歯薬出版 DVD視聴			
評価方法	出席状況 課題 小テスト 終講試験			
備考				

授業科目		産婦の看護		担当者	本田 和子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義30		2年次・前期
	実務経験	有		看護師・助産師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 分娩・産褥経過に伴う母性の変化とその特性 産婦・褥婦およびその家族に必要な看護				
授業の目標および授業計画	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩経過とそれに伴う母性の変化と特性を理解し、必要な看護援助を学ぶ 2. 産婦とその家族に必要な看護援助を学ぶ 3. 出生直後の新生児のアセスメントと看護援助を学ぶ 4. 分娩期の異常と看護を学ぶ <p>計画</p> <p>回 内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 1. 分娩期の概観 2. 分娩とは ; A 分娩の定義 B 分娩の分類 C 分娩の3要素 2 C 分娩の3要素 3 3. 正常分娩の経過とアセスメントと援助 ; A 分娩の前兆 B 分娩開始 C 分娩第1期のアセスメントと援助 4 C 分娩第1期のアセスメントと援助 5 C 分娩第1期のアセスメントと援助 6 D 分娩第2期のアセスメントと援助 7 E 分娩第3期・F 分娩第4期のアセスメントと援助 8 4. 分娩期の正常経過からの逸脱と看護 9 分娩期の正常経過からの逸脱と看護 10 分娩期の正常経過からの逸脱と看護 11 5. 出生直後の新生児のアセスメントと援助 12 6. 家族のアセスメントと援助 13 7. 産科処置と産科手術 14 7. 産科処置と産科手術 				
使用教材および参考文献	<p>テキスト</p> <p>母性看護学Ⅱ マタニティサイクル. 南江堂</p> <p>参考書</p> <p>母性看護学Ⅰ, 概論・ライフサイクル. 南江堂</p> <p>母性看護の実践. メディカ出版</p> <p>母性看護学Ⅱ. 医歯薬出版</p> <p>DVD視聴</p>				
評価方法	<p>出席状況</p> <p>課題</p> <p>小テスト</p> <p>終講試験</p>				
備考					

授業科目		褥婦と新生児の看護		担当者	本田 和子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義26・演習4		2年次・後期
	実務経験	有		看護師・助産師	
区分	その実務経験を生かして行う教育内容 新生児の生理的特徴や変化、適応過程、育児技術 母乳育児の特性 育児支援に役立つ情報				
授業の目標および授業計画	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥経過に伴う母性の変化と特性を理解し、必要な看護援助を学ぶ 2. 母乳育児の特性を理解し、母乳育児支援に役立つ情報提供とケアを学ぶ 3. 新生児の生理的特徴や変化、適応過程を理解し、育児技術を学ぶ 4. 産褥期の異常と看護、新生児の異常と看護を学ぶ <p>計画</p> <p>回 内 容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 1. 産褥期の概観 2. 産褥期の経過 ; A 定義 B 褥婦の生理的変化 2 B 褥婦の生理的変化 C 新たな関係性の獲得 D 役割調整と社会的手続き 3 3. 産褥期の身体状態のアセスメントと援助 ; A・B・C 4 D 母乳育児に関するアセスメントと援助 5 4. 産褥期の親になっていく過程のアセスメントと援助 6 4. 産褥期の親になっていく過程のアセスメントと援助 7 5. 褥婦の正常経過からの逸脱と援助・帝王切開を受ける妊産褥婦への看護 8 特別な配慮・支援を必要とする妊産褥婦への支援 9 1. 新生児とは ; A・B・C・D 10 E・F 2. 新生児の子宮外生活適応のアセスメントと援助 11 2. 新生児の子宮外生活適応のアセスメントと援助 12 3. 新生児の発達状況のアセスメントと援助 ; A・B 13 4. 新生児の健康問題と看護 14 4. 新生児の健康問題と看護 5. 施設内における事故防止と安全 15 終講試験 				
使用教材および参考文献	<p>テキスト</p> <p>母性看護学 II マタニティサイクル. 南江堂</p> <p>参考書</p> <p>母性看護学 I, 概論・ライフサイクル. 南江堂</p> <p>母性看護の実践. メディカ出版</p> <p>母性看護学 II. 医歯薬出版</p> <p>DVD視聴</p>				
評価方法	<p>出席状況</p> <p>課題</p> <p>小テスト</p> <p>終講試験</p>				
備考					

授業科目	社会の中の精神障害	担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義24 演習6
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神保健・医療・福祉の歴史の変遷と法制度 精神疾患・障害がある人の人権と安全を守り、回復を支援する治療的環境と看護		
授業の目標および授業計画	授業の目標		
	1. 歴史の変遷から、精神障害とその治療に関わる社会の歴史と文化とのつながりを知り、その多様性と普遍性を理解する。		
	2. 精神疾患・障害がある人の人権と安全を守り、回復を支援するための治療的環境と看護について学ぶ。		
	授業計画		
	1回目：講義	精神障害の理解と考え方精神障害のとらえ方（疾患モデルと障害モデル）	
	2回目：講義	精神疾患が与える影響と精神障害者を取り巻く環境	
	3回目：	DVD『ビューティフル・マインド』	
	4回目：講義	社会の変化に伴う精神保健医療の変遷（欧米）	
	5回目：講義	社会の変化に伴う精神保健医療の変遷（日本）	
	6回目～10回目	：演習 日本の精神保健医療福祉の現状と課題	
		精神保健医療福祉の改革ビジョン 偏見・差別・スティグマ	
	11回目：講義	精神保健医療福祉に関する法制度 看護の倫理と人権擁護	
	12回目：講義	患者の安全を守り、回復を促すための治療環境	
	13回目：講義	地域移行支援・地域生活支援 カプランの予防の概念 生きる力と強さに着目した援助（ストレングスモデル）	
	14回目：講義	精神障害者の社会資源の活用とケアマネジメント	
15回目：終講試験			
使用教材および参考文献	<テキスト>		
	「系統看護学講座 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎」医学書院 「系統看護学講座 精神看護学〔2〕 精神看護の展開」医学書院		
評価方法	<参考文献>		
	国民衛生の動向. 厚生労働統計協会		
備考	以下の結果を総合して評価する		
	1) 課題レポート・演習 30点 2) 終講試験 70点		

授業科目	精神の疾病と治療	担当者	相良 威一郎
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	15	講義15
	実務経験	有	医師
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神の機能と症状・状態像 精神疾患における診断のプロセス・治療		
授業の目標および授業計画	<p>授業目標</p> <p>1. 精神の機能と症状・状態像について理解する。 2. 主な精神疾患の特徴と診断プロセス、治療について理解する。</p> <p>授業計画</p> <p>1回目：講義 精神科総論 2回目：講義 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害の症状・検査・治療 3回目：講義 気分（感情）障害の症状・検査・治療 4回目：講義 器質性精神障害の症状・検査・治療 5回目：講義 てんかんの症状・検査・治療 6回目：講義 物質関連障害（アルコール・薬物依存症）の症状・検査・治療 神経症性障害の症状・検査・治療 7回目：講義 医療観察法・精神保健福祉法 8回目：終講試験</p>		
使用教材および参考文献	<p><テキスト> 「系統看護学講座 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎」医学書院</p>		
評価方法	受講状況・終講試験の結果で総合的に評価する		
備考			

授業科目		精神に障がいを持つ人への看護		担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	1	30	講義16・演習14		2年次 後期
	実務経験	有		看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神看護実践に必要な対人関係技術 精神に障害を持つ対象への看護実践方法				
授業の目標および授業計画	<p>授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護実践に必要な対人関係技術について学ぶ。 2. 精神疾患・障害のある対象への基本的な看護実践の方法を理解する。 3. 精神疾患・障害のある対象の状態をアセスメントし看護を展開する方法を学ぶ。 <p>授業計画</p> <p>1回目：講義 主な精神状態に対する看護 2回目：講義 身体療法（薬物療法・電気けいれん療法）時の看護 3回目：講義 精神療法・社会療法時の看護 4回目：講義 主な精神疾患に対する看護（統合失調症・気分（感情）障害） 5回目：講義 主な精神疾患に対する看護（てんかん・器質性精神障害・依存症など） 6回目：演習 ケアの人間関係①体験学習 7回目：講義 ケアの人間関係②自己理解・他者理解 プロセスレコード 8回目：講義 ケアの人間関係③身体ケアの必要性 治療的コミュニケーション技法 9回目～14回目 ：講義・演習 精神疾患をもつ対象の事例を用いた思考過程演習 15回目：終講試験</p>				
使用教材および参考文献	<p><テキスト></p> <p>「系統看護学講座 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎」医学書院 「系統看護学講座 精神看護学〔2〕 精神看護の展開」医学書院</p> <p><参考文献></p> <p>演習で使用する文献は、学習課題に沿って用意する</p>				
評価方法	<p>以下の結果を総合して評価する</p> <p>1) 演習（課題レポート・体験学習・思考過程演習） 50点 2) 終講試験 50点</p>				
備考					

	授業科目	看護管理	担当者	三島 真美・富吉 良子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義16・演習14	2年次・前後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 1. 看護ケアのマネジメント 2. 組織としての看護サービスのマネジメント			
授業の目標および授業計画	授業の目標 対象に提供される看護ケアと、組織の管理者としての看護サービスのマネジメントについて学ぶ。			
	授業計画	内容		
	回	内容		
	1回	1. 看護管理とは ・看護ケアのマネジメントプロセス ・教育ラダー・キャリアアップ ・看護基準・看護手順 ・タイムマネジメント ・ストレスマネジメント ・看護管理者が行うチーム医療とは ・多職種協働における看護管理者の役割 ・多職種での倫理検討の重要性		
		2. 看護サービスのマネジメント ・病院の理念・目標・組織図 看護の目標・組織図 ・看護単位とケア提供システム ・人材のマネジメント (CDP他)、看護方程式 ・採用・配置・解雇		
		3. 労働環境・法制度 ・ワークライフバランス ・ストレスチェック ・雇用形態・勤務形態・育児休業・介護休業		
		4. 施設・設備・物品のマネジメント ・医薬品・医療機器・コスト、 ・看護経済 ・経営に関わる情報のマネジメント ・収支管理・予算編成・診療報酬制度 (入院基本料など) ・看護管理者が考える医療安全、感染管理		
	9～14回	病院作成 (グループワーク) 地域の特徴・病院 (診療科・病床数) ・看護部理念・組織図 看護単位・看護ケア提供システム・新人教育/教育・看護管理者の役割		
	15回	発表		
使用参考文献および	テキスト：看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院			
評価方法	終講テスト レポート等			
	出席状況・グループワークの授業態度を参考とする。			
備考				

	授業科目	医療安全	担当者	白石 睦
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	15	講義・演習	2年次前・後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 看護業務における医療事故の種類と事故発生要因 医療事故分析と事故発生のメカニズム 防止策と事故後の対応			
授業の目標および授業計画	<p><授業目標> 医療や看護を取り巻く医療安全の現状を理解し、医療事故の要因からその分析方法までを学ぶ。また、臨床現場において起こりやすい事故とその取り組みを理解する。さらに事例を用いて多角的視点から事故の背景や要因を分析し、安全対策を考え、事故後の対応を学ぶ。</p> <p><授業計画> 第1回 医療安全の歴史と医療安全への取り組み 第2回 医療事故発生のメカニズム 第3回 看護における医療安全対策 第4回 医療事故分析手法、事故後の対応、事例検討 (KYT) 第5回 看護師の労働安全衛生上の事故防止 第6・7回 医療事故防止のためのコミュニケーション技術 第8回 終講試験</p>			
使用教材および参考文献	<p><テキスト> 系統看護学講座 医療安全 看護の統合と実践 医学書院</p> <p><参考文献> 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社</p>			
評価方法	<p>レポート 20% 終講試験 80%</p>			
備考				

授業科目	看護実践力の基礎を 培う実習		担当者	島津 めぐみ
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	90	実習90	2年次・後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 患者の統合的理解 看護過程展開 日常生活援助技術 治療処置援助技術			
授業の 目標 および 授業 計画	<p>I. 目的 日常生活行動の援助を通して患者を統合的に理解し、患者に適応した看護過程の展開ができる</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入院生活における患者の問題点を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解する。 2. 患者のもつ看護上の問題を明確にし、必要な日常生活行動の援助を計画できる。 3. 計画に基づいて患者に適応した援助ができる。 4. 援助した結果を評価できる。 5. 保健医療福祉チームの一員としての自覚ができる。 6. 問題意識をもち、主体的に学習にとりくむ態度を身につける。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害により日常生活に支障のある成人・老人の日常生活の援助を行う。 2. 受け持ち患者への看護過程を展開する。 3. 看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの技術 2) 日常生活行動を支える技術 3) 診療に伴う援助技術 4) 学習支援技術 5) 安全・安楽の技術 6) 観察・記録 <p>IV. 実習場所 医療法人愛誠会 昭南病院 霧島市立 医師会医療センター 鹿児島医療生活協同組合 国分生協病院</p>			
履修要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野の基礎看護学の単位を取得していること 2. 既習の専門基礎分野の単位を取得または取得見込みであること。 			
授業の 進め方	[看護実践力の基礎を培う実習]の要項に基づき展開する。			
評価 方法	出席状況、看護実践状況、実習記録をもとに、既定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目	健康な子どもを理解する実習		担当者	吉川美代子
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	30	実習90	2年次・前期
	実務経験	有		看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 健康な子どもの成長・発達の特徴を理解した援助の実際			
授業の目標および授業計画	<p>I. 実習目標</p> <p>小児看護の基礎としての健康な子どもの成長・発達の特徴を理解し、援助の実際を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの活動場面から成長発達の特徴について理解することができる。 2. 子どもとの望ましい関わり方とコミュニケーションの方法を理解することができる。 3. 子どもの成長発達に応じた日常生活の援助の方法を理解することができる。 4. 子どもの安全と健康を守るための環境について理解することができる。 <p>II. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認定こども園等の実習：24時間 乳幼児の成長発達の理解と保育 2. 放課後児童クラブの実習：6時間 学童期の子どもの成長発達の理解と支援 <p>III. 実習場所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 霧島市内の認定こども園 2. 霧島市内の放課後児童クラブ 			
履修規定	専門分野（小児看護学に関する科目）の単位を取得もしくは取得見込みであること。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポート、既定の評価方法に基づく自己評価などから規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目	地域で生活する高齢者を理解する実習		担当者	穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	90	実習90	2年次 前期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 老年期にある人の生活の場と健康レベル 老年期の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的特徴 介護保険施設での高齢者への援助			
授業の目標および授業計画	<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で自立した生活を営んでいる老年期にある人々の生活の場と健康レベルを理解できる。 2. 地域で生活しながら福祉サービスを利用している老年期にある人々の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的特徴が理解できる。 3. 介護保険施設で生活する高齢者の発達段階と老化の特徴および健康障害を理解し、人格を尊重しながら入所者とその家族に応じた援助ができる。 <p><実習内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴をふまえて、コミュニケーションを図る。 2. アクティビティケアの実施。 3. 健康障害の程度に応じた日常生活援助を指導者と実施。 <p><実習場所></p> 地域 デイサービス（介護型・リハビリ型） グループホーム、介護老人保健施設、介護老人福祉施設			
履修要件	1. 専門分野（老年看護学）の単位を取得もしくは取得見込みであること			
評価方法	実習記録・レポート・出席状況などを総合して評価する			
備考				

授業科目	看護の探求	担当者	元 桂恵
区分	単位数		授業形態
	1	30	講義20・演習10
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容		
	看護研究の基礎 文献検索、文献検討の方法 プレゼンテーション方法		
授業の目標および授業計画	授業目標		
	1. 看護研究を実施するための基本的なプロセスとルールを理解する。		
	2. 看護における疑問や課題を解決するための文献検索と文献検討の方法を学ぶ。		
	3. ケーススタディを基本構造に則ってレポートにまとめることができる。		
	4. ケーススタディを聴き手にわかりやすく口頭発表できる。		
	授業計画		
	1回目： 講義	看護における研究の意義 看護研究におけるケーススタディの位置づけ ケーススタディのテーマ選定について	
	2回目： 演習	文献検索と文献検討の方法について	
	3回目： 講義	研究計画書の必要性と作成方法	
	4回目： 演習	研究計画書の検討	
	5回目： 講義	ケースレポートの基本構造（まとめ方）	
	6回目： 講義	抄録の作成について	
	6回目： 講義	口頭発表について（スライド作成・発表原稿の作成）	
7回目： 講義	研究テーマの絞り込みのプロセス		
8回目： 講義	研究デザイン 量的な研究と質的な研究の特徴		
9回目： 講義	データ収集・分析方法		
10回目： 講義	研究論文のまとめ方の約束事・クリティークの仕方		
11回目： 演習	研究の論文のクリティーク		
12回目： 講義	研究倫理・看護研究における倫理的配慮		
13～15回目	演習 ケーススタディ発表		
使用教材および参考文献	テキスト：「楽しくできるわかりやすい看護研究論文の書き方」照林社 資料配布		
評価方法	1) 用語の定義・研究計画書・クリティーク 40% 2) ケースレポート・口頭発表 60% * 提出期限・グループワークや発表会の参加状況を重視する		
備考			

	授業科目	総合看護の実践	担当者	村下 清美	
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別	
	1	30	講義30	3年次・後期	
	実務経験	有	看護師		
	その実務経験を生かして行う教育内容 臨床での総合的な判断・対応の基礎				
授業の目標および授業計画	目標 臨床に近い状況で総合的な判断・対応を体験することにより卒後の看護業務遂行のイメージができる。				
	授業計画				
	第1回	実務に即した看護実践実習の学びの共有			
	第2～4回	複数患者を受け持つための情報収集・管理 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理			
	第5～6回	多重課題への対処 多重課題の危険性 多重課題発生時の対処の原則			
	第7～9回	看護実践と健康管理 看護職の生活の特徴 生活パターンの確立 ストレス対策			
	第10～11回	夜勤の業務内容について 転倒時の対応			
	第12～13回	看護師のチームワークとリーダーシップ、コミュニケーション 指示と報告の基本 看護チームでの情報伝達・共有 多職種とのチームワークとコミュニケーション			
	第14回	計算問題			
	第15回	終講試験			
	使用教材および参考文献	看護の統合と実践 看護実践マネジメント 医療安全			メヂカルフレンド社
	評価方法	出席状況 授業参加態度 レポート 終講試験			
	備考				

授業科目	国際・災害看護	担当者	森 隆徳・連 利博 永橋 浩佑・JICA
区分	単位数	時間数	授業形態
	1	30	講義20・演習10
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 国内外の災害看護の基礎と活動 国際看護の現状と課題		
授業の目標および授業計画	授業の目標 国内外の災害看護の基礎と活動 国際看護の現状と課題について理解を深める。 授業計画 回 内容 I 1～3回 国際看護学の定義 国際看護学の対象 国際看護に関する基礎知識 国際協力の基礎知識 4～5回 国際・医療NGO経験、国際医療の問題点と対策（看護の観点から） 6～7回 JICA 概要 体験談 医療分野の現状 II 8～12回 災害医療と災害看護の基礎知識 災害の歴史と法による減災 災害サイクルに応じた災害看護（急性期・慢性期・復興期・静穏期） 被災者に応じた災害看護 （子ども・妊産婦・高齢者・外国人・障害者・慢性疾患患者） 急性期・亜急性期の看護（災害支援ナース） 慢性期・静穏期の看護（生活支援・ボランティア・防災） 13～14回 急性期・亜急性期の看護 （ドクターカー・ドクターヘリ事例・トリアージ事例） 15回 終講試験		
	使用教材および参考文献	テキスト：看護の統合と実践 災害看護学・国際看護学 医学書院	
評価方法	終講試験・レポート評価（災害看護60% 国際看護40%）		
備考			

授業科目	災害・救急時の 看護実践力を培う演習		担当者	村下 清美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	講義10 演習20	3年次・後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 救命救急を必要とする対象への看護の実際 臨床判断			
授業の 目標 および 授業 計画	目標	救命救急を必要とする対象への看護の実際、臨床判断について学ぶ		
	授業計画			
	第1回	胃潰瘍から出血性ショックを呈した患者の事例提示 胃の解剖生理		
	第2回	胃潰瘍の病態		
	第3回	ショックについて		
	第4～5回	必要とされる看護技術について		
	第6回	＜演習＞心電図		
	第7回	＜演習＞静脈血採血、点滴静脈内注射		
	第8回	＜演習＞点滴滴下調整、輸液ポンプ・シリンジポンプ操作		
	第9回	＜演習＞胃管挿入、膀胱留置カテーテル挿入		
	第10回	＜演習＞吸引（口、鼻腔、気管内）、酸素吸入		
	第11回	＜演習＞SBAR、救急カート、バックバルブマスク、気管内挿管介助		
使用 教材 および 参考 文献	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 急性期看護Ⅱ 救急看護・クリティカルケア 写真でわかる 実習で使える看護技術 看護技術プラクティス		医学書院 南江堂 インターメディカ 学研メディカル秀潤社	
評価 方法	出席状況 授業参加態度 レポート 小テスト 演習については規定の評価表に基づいて評価する			
備考				

授業科目	看護の実践力を培う実習		担当者	森山 ゆきみ 穂山 みどり
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	6	270	実習 270	2年次後期～3年次後期
	実務経験	有	看護師/医師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 対象の発達段階の特徴、健康レベル・経過別に適応した看護実践			
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 対象の発達段階の特徴を理解しながら、あらゆる健康レベルに対する問題・課題を明らかにした上で倫理的判断や科学的根拠に基づいた看護を保健医療福祉チームの一員として実践する。</p> <p>II. 目標 1. 対象の健康レベルが身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響について理解する。 2. 対象の発達段階・健康レベル・経過別の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。 3. 対象の健康の保持・増進、疾病の予防の援助ができる。 4. 継続看護の必要性を理解し、社会復帰への援助ができる。 5. 保健医療福祉チームにおける看護職の役割機能を理解し、多職種と協働・連携を図ることができる。 6. 自己の看護に対する考えを深め、今後の課題を明らかにできる。</p> <p>III. 実習内容 1. 対象の健康障害、健康レベル・経過別に応じた看護過程の展開を学ぶ。 2. 対象の個別性に応じた看護技術の展開を学ぶ。 3. 医療チームと連携し、患者を中心とした看護を展開する。</p> <p>IV. 実習場所 独立行政法人 国立病院機構南九州病院 霧島市立 医師会医療センター 鹿児島医療生活協同組合国分生協病院 医療法人愛誠会 昭南病院</p>			
履修規定	<p>2年時の実習 既習の専門基礎分野・専門の単位を取得していることもしくは取得見込みであること。</p> <p>3年次の実習 既習の専門基礎分野・専門の単位を取得していること。</p>			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・2単位ごとに評価する。 ・出席状況、看護実践状況、実習記録をもとに規定の評価表に基づいて評価する。 			
備考				

授業科目	女性を支える看護 実践力を培う実習	担当者	白石 睦
区分	単位数	時間数	授業形態
	2	90	実習90
	実務経験	有	看護師
	その実務経験を生かして行う教育内容 妊娠・分娩・産褥各期と新生児の理解 母性看護に必要な基礎的知識・技術・態度		
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 妊娠・分娩・産褥における母性の特徴を理解し、母性及び新生児に必要な看護と保健指導を行いうる基礎能力を養う</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的变化を観察し、その経過をとらえることができる 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の心理・社会的側面を観察し、特徴を理解する 3. 対象者の健康水準を理解し、看護の必要性や課題を理解する 4. 対象に適した援助技術やその方法を学ぶ 5. 母子に関する社会的資源を理解し、その活用方法を学ぶ 6. 自らの母性や親性に気付くことができる 7. 生命の尊厳を認識できる <p>III. 内容および方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母子の受持ち実習による看護過程展開 2. 外来実習による妊婦の看護 3. 機能別実習による産婦の看護および新生児の看護 4. その他 <p>IV. 実習場所</p> <p>みつお産婦人科 前田産婦人科クリニック</p> <p>V. 実習の進め方</p> <p>母性看護学実習要項に基づき展開する</p>		
履修要件	既習の専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱの母性看護学の単位を取得していること。		
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、事前課題レポート、規定の評価表にもとづく自己評価などから規定の評価表に基づいて評価する。		
備考			

授業科目	精神疾患患者への 看護実践力を培う実習		担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	90	実習90	3年次 前期～後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 精神に障害を持つ対象を理解した看護実践			
授業の目標および授業計画	<p>I. 授業目的 精神に障害をもつ対象の理解を深め、必要な看護が実践できる基礎的知識・技術・態度を身につける。</p> <p>II. 授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に現れている症状を把握し、検査・治療に対する援助が理解できる。 2. 環境が対象に与えている影響について理解し、治療的環境の意味を考えることができる。 3. 患者との相互関係の中で自己を振り返り、関係を発展させることができる。 4. 精神の障害が対象に与えている影響を知り、レベルに応じた自立への援助が理解できる。 5. 対象のリカバリーにおける課題を見出すことができる。 <p>III. 授業計画 下記の学習内容について「精神看護学実習要項」に基づき実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害の病因とその分類・主な症状の理解 2. 精神状態が日常生活に与えている影響と援助の理解 3. 検査・治療の目的、心身に与えている影響、検査・治療時の援助 4. 精神科病棟の構造・設備・特殊性、環境の治療的意味 5. 医療チームメンバーの役割、連携の重要性 6. 治療的コミュニケーション技術の重要性、自己の振り返り 7. 対象の社会復帰を阻害する因子、社会復帰支援の実際 <p>IV. 実習場所 医療法人仁心会 松下病院</p>			
履修要件	既習の専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ（「精神の健康の保持・増進」「社会の中の精神障害」「精神の疾病と治療」「精神に障害を持つ人への看護」）の単位を取得していること。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポートについて、規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目	地域で暮らす精神障害者への 看護実践力を培う実習		担当者	元 桂恵
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	1	30	実習30	3年次 前期～後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容			
	<p>精神に障害を持ち地域で生活している人のセルフケアと支援のあり方 精神に障害を持ち地域で生活している人が受けられる福祉サービス</p>			
授業の 目標 および 授業 計画	<p>I. 授業目的 精神に障害を持ち地域で生活している人への支援の実際について理解する。</p> <p>II. 授業目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害を持ち地域で生活している人のセルフケアについて、ストレングスに焦点を当てて情報を得ることができる。 2. 精神に障害を持ち地域で生活している人を支援する多様な職種の役割と機能を理解する。 3. 精神に障害を持つ人の地域生活を支える制度と支援の実際について理解する。 <p>III. 授業計画 下記の学習内容について「精神看護学実習要項」に基づき実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害を持ち地域で生活している人のセルフケアと支援の実際 2. 精神に障害を持ち地域で生活している人を支援する多様な職種の役割と機能 3. 精神に障害を持ち地域で生活している人が活用している制度 <p>IV. 実習場所</p> <p>社会福祉法人たちばな会 就労支援事業所 オレンジの里 医療法人仁心会 松下病院</p>			
履修要件	既習の専門基礎分野・専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ（「精神の健康の保持・増進」「社会の中の精神障害」「精神の疾病と治療」「精神に障害を持つ人への看護」）の単位を取得していること。			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポートについて、規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				

授業科目		疾病や障害を持つ子どもへの看護実践を培う実習		担当者	吉川美代子
区分	単位数	時間数	授業形態		履修年次・前/後期別
	2	30	実習30		3年次・前後期
	実務経験	有		看護師	
その実務経験を生かして行う教育内容 健康障害を持つ小児とその家族の理解と、発達段階・個別性を踏まえた援助方法					
授業の目標および授業計画	<p>I. 実習目標</p> <p>重症心身障害児とその家族を統合的に理解し、必要な看護を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重症心身障害児及びその家族について理解することができる。 2. 重症心身障害児への療育・看護の方法について学び、実践することができる。 3. 重症心身障害児施設での看護師の役割を理解することができる。 <p>II. 実習内容</p> <p>対象の健康障害、健康レベルに応じた看護 対象の発達段階と個別性をふまえた看護 小児に特有な看護技術 保健医療福祉チームの役割と連携、社会資源の活用</p> <p>III. 実習場所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 独立行政法人国立病院機構 南九州病院 2. 社会福祉法人たちばな会 医療福祉センターオレンジ学園 				
履修規定	専門分野（小児看護学に関する科目）の単位を取得もしくは取得見込みであること。				
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポート、既定の評価方法に基づく自己評価などから規定の評価表に基づいて評価する。				
備考					

授業科目	地域での暮らしを支える 看護実践力を培う実習		担当者	赤崎 里美								
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別								
	2	60	実習60	3年次・前後期								
	実務経験	有		看護師								
	その実務経験を生かして行う教育内容 地域・在宅で看護を必要としている個人、その家族に対する看護援助の実践 地域で生活している人々の健康の保持増進と質の高い生活への援助											
授業の目標および授業計画	<p>I. 目的 在宅で看護を必要としている個人とその家族に対して、生活の現状をふまえた看護援助が実践できる能力を養う。また、地域で生活している人々が保健サービスを利用して、健康の保持増進とより質の高い生活を送ることができるよう援助することの必要性を理解する。</p> <p>II. 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養している人への訪問看護を通して、療養している個人と家族に対する看護の役割を理解する。 2. 地域で生活している人々の健康増進・疾病の予防について理解する。 3. 地域で生活している人々の健康上の問題・関連する諸問題の解決にかかわる多様な職種の役割・機能を理解し、調整的役割の重要性を学ぶ。 4. 継続看護の必要性を理解する。 5. 対象をとりまく環境を理解し、その人の価値観と考え方を尊重した接し方ができる。 <p>III. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養している人への訪問看護 2. 地域における健康保持増進・疾病予防の援助 3. 在宅で療養している人の生活を支える援助 <p>IV. 実習場所</p> <table border="0"> <tr> <td>生協訪問看護ステーションこくぶ</td> <td>訪問看護ステーション姫城</td> </tr> <tr> <td>フラワーホーム居宅介護支援事業所</td> <td>居宅介護支援事業所 希望の里</td> </tr> <tr> <td>ケアプランセンターガーデン</td> <td>国分生協病院地域連携室</td> </tr> <tr> <td>霧島市立医師会医療センター</td> <td>小規模多機能ホーム敷根</td> </tr> </table> <p>V. 地域での暮らしを支える看護実践力を培う実習要項に沿って実習する</p>				生協訪問看護ステーションこくぶ	訪問看護ステーション姫城	フラワーホーム居宅介護支援事業所	居宅介護支援事業所 希望の里	ケアプランセンターガーデン	国分生協病院地域連携室	霧島市立医師会医療センター	小規模多機能ホーム敷根
生協訪問看護ステーションこくぶ	訪問看護ステーション姫城											
フラワーホーム居宅介護支援事業所	居宅介護支援事業所 希望の里											
ケアプランセンターガーデン	国分生協病院地域連携室											
霧島市立医師会医療センター	小規模多機能ホーム敷根											
履修要件	既習の専門基礎分野、専門分野の基礎看護学、地域・在宅看護論の単位を修得していること。											
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、レポート、規定の評価表に基づいて評価する。											
備考												

授業科目	実務に即した 看護実践実習		担当者	村下 清美
区分	単位数	時間数	授業形態	履修年次・前/後期別
	2	90	臨地実習90	3年次・前/後期
	実務経験	有	看護師	
	その実務経験を生かして行う教育内容 病棟管理の実際 チーム医療 看護専門職の役割			
授業の 目標 および 授業 計画	<p>I 目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護問題を明確にし、計画の立案ができる。 2. 看護の優先順位を考え、必要な援助を実施し、評価・修正ができる。 3. 外来看護師の役割を理解し、外来看護の実際が理解できる。 4. 看護管理の実際が理解できる。 5. 看護専門職として、自己の課題とその対策について考えることができる。 6. 主体的に学習することができる。 <p>II 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数受け持ちの看護を実践する。 2. 業務の流れを把握しチームの一員として看護を実践する。 <p>管理の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院組織における看護管理 (看護組織と運営 看護理念 看護方式 病院看護機能評価) 2. 病棟管理者の役割と業務 (病床管理 医療安全対策 職員の配置 職員の健康管理 他部門との連携・調整 職員・看護学生の指導) 3. コーディネーターの役割と業務 <p>III. 実習場所</p> <p>霧島市立医師会医療センター 鹿児島医療生活協同組合 国分生協病院 「実務に即した看護実践実習要項」に基づき実習を行う。</p>			
履修要件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の専門基礎分野の単位を修得していること。 2. 専門分野の基礎看護学・看護の統合と実践の単位を取得もしくは取得見込みであること。 			
評価方法	出席状況、看護実践状況、実習記録、規定の評価表に基づいて評価する。			
備考				